

後 記

わが国のフランス文学界を取り巻く環境はますます厳しさを増しているようであるが、にもかかわらず今回、逆流に棹差して本誌『仏語仏文学』32号を刊行するのはこびに至ったことは、詢に喜ばしい、意義ある成果と言えよう。

2005年度研究発表会ならびに総会は12月18日(土)13時30分より本学AV-A教室にて開催された。今回は3名の会員諸氏が下記タイトルによる研究の成果を発表された。各発表に対する活発な質疑応答が、いやがうえにも会場を盛り上げ、実り豊かな研究発表会となった。発表者名と題目を報告しておく。

1. ヴィクトール・セガレンの小説における語り手について

本学大学院前期課程 高岸 敦夫 氏

2. セリーヌとヘンリー・フォード

—米・仏における反ユダヤ主義の一形態およびその表象—

本学大学院後期課程 竹 田 悠 氏

3. A.カミュの『反抗的人間』再審

本学教授 平田 重和 氏

引き続き総会が開かれ、次年度より現会長平田重和氏から本田忠雄氏に会長職が禅譲されることが承認され、16時30分閉会となった。「つぼ八」(関大前店)での懇親会も会員諸兄の親睦の意味を十二分に果たす楽しい集いであった。

長き歴史と伝統あるわがフランス語フランス文学専修も学科時代を合わせると、3年後には60周年を迎えることになる。今後とも会員のみなさまの一層のご活躍を期待したい。

(川神)

関西大学フランス語フランス文学会々則

1. 本会は関西大学フランス語フランス文学会 (Société de Langue et Littérature Françaises de l'Université Kansai/Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) と称し、事務所を関西大学文学部フランス語フランス文学科合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語 仏文学」(Bulletin de la Société de Langue et Littérature Françaises de l'Université Kansai/The Bulletin of Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) およびその他の出版物の刊行
 2. 研究会・講演会の開催
 3. その他本会の目的にかなう事業
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部フランス語フランス文学科専任教員
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻学生、およびその卒業生
 3. 関西大学文学部フランス語フランス文学科学生、およびその卒業生(旧学科名称関西大学文学部フランス文学科の学生、およびその卒業生を含む)
 4. 本会の趣旨に賛同し、入会を認められたもの
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会長 1名
 2. 委員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語 仏文学」等の配布をうける。また会員は機関誌への投稿、および本会の行なう事業に参加することができる。なお、投稿論文は、会則6. に定める委員会の議を経て掲載される。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

(2001年4月1日から施行)

仏語 仏文学 第32号

2006年2月28日 発行

編集・発行

関西大学フランス語フランス文学会

吹田市山手町 関西大学

フランス語フランス文学研究室

印刷所

株式会社 高速オフセット

大阪市北区梅田3丁目4番5号(毎日新聞ビル6F)

電話 (06) 6346-2800(代)

(非売品)